

CA Business Service Insight

Catalyst コネクタ ガイド

8.2.5



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複写、譲渡、開示、変更、複本することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、
(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負いません。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2013 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

CA への連絡先

テクニカルサポートの詳細については、弊社テクニカルサポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章: 概要	7
このガイドについて.....	7
用語.....	8
CA Business Service Insight コネクタ	10
CA Business Service Insight コネクタ	10
オペレーティング環境サポート	11
通信ポート.....	11
統合シナリオ.....	12
第 2 章: 実装および設定	13
インストール時の考慮事項.....	13
CA Business Service Insight コネクタのインストール.....	14
CA Business Service Insight コネクタの設定.....	18
インストールおよび設定後の操作.....	21
CA Business Service Insight コネクタのアンインストール.....	22
第 3 章: コネクタとドメイン マネージャのインタラクション	23
コネクタからのアウトバウンド操作.....	23
USM データ マッピング	23
タイプのマッピング.....	24

第 1 章：概要

この章では、CA Business Service Insight コネクタについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[このガイドについて](#) (P. 7)

[用語](#) (P. 8)

[CA Business Service Insight コネクタ](#) (P. 10)

[CA Business Service Insight コネクタ](#) (P. 10)

[オペレーティング環境サポート](#) (P. 11)

[通信ポート](#) (P. 11)

[統合シナリオ](#) (P. 12)

このガイドについて

このガイドでは、CA Business Service Insight 用の CA Catalyst コネクタのインストールおよび設定方法について説明します。

CA Catalyst コネクタは、ユニークな異種環境コンテキストにおいて、製品データを収集し、それを共通形式に変換して、視覚化、分析、および管理のためにデータを表示します。CA Catalyst または CA Catalyst プラットフォームを消費または利用する製品内のコネクタから収集されたデータを管理することができます。

このガイドには CA Business Service Insight 用の CA Catalyst コネクタに固有の情報が含まれます。CA Catalyst コネクタおよび CA Catalyst インフラストラクチャに関する一般的な情報や、すべてのコネクタに適用される情報、およびカスタム コネクタの統合に関する情報については、CA Catalyst のドキュメント、および（必要に応じて）コネクタ データを消費する他の製品のドキュメントを参照してください。

この特定のコネクタに関する既知の問題については、コネクタ パッケージと共に配布される *CA Business Service Insight コネクタ Readme* を参照してください。

用語

以下のリストには、ユーザが初めて CA Catalyst コネクタを使用する場合に役に立つ概念と用語が含まれています。

コネクタ

コネクタは、CA Catalyst から外部製品（このドキュメントでは「ドメイン マネージャ」と呼ばれます）へのリンクです。各コネクタは、そのドメイン マネージャから情報を取得し、コネクタ フレームワークを通じて情報を CA Catalyst および消費する製品転送して、視覚化と分析に利用します。またコネクタは、ソース ドメイン マネージャ内のデータに対する操作も実行できます。CA Catalyst コネクタは、複数の消費者向け製品との統合を有効にするために、統一されたコネクタ フレームワークを使用します。

消費製品

消費製品は、CA Catalyst プラットフォームを利用して、特定のコンテキスト内でコネクタからのデータを表示および管理します。たとえば、CA Service Operations Insight（CA Spectrum SA、旧名称「CA Spectrum Service Assurance」）は、CA Catalyst プラットフォームを完全に消費して、ビジネス サービス、クロスドメイン イベント、およびアラート管理のコンテキストにおいてすべての CA Catalyst データを表示します。CA Process Automation では、CA Catalyst コネクタからのコンテンツを消費して、それをプロセス ワークフローで使用することができます。

USM

Unified Service Model（USM）は、すべてのコネクタからのデータに基づいて変換される一般オブジェクト タイプおよびプロパティのスキーマです。USM スキーマにより、すべてのドメイン マネージャからの抽象データを、共通インターフェースで同一形式を使用して分析することが可能になります。

構成アイテム(CI)

構成アイテム (CI) は、ドメイン マネージャによって管理される IT 要素を表します。各 CI は、ComputerSystem、Database、Process、Relationship などの (USM スキーマ内で定義された) タイプに属します。コネクタは、ドメイン マネージャからの管理対象オブジェクトを USM スキーマに準拠するように変換して、CI として CA Catalyst にインポートします。

サービス

サービスは、複数のドメイン マネージャによって管理される CI を含む
うる個別のビジネス機能を表します。例えば、給与サービスには、セ
キュリティ製品によって管理されるユーザストア、メインフレーム製
品によって管理されるバッチ ジョブ、ネットワーク製品によって管理
されるルータ、アプリケーション管理製品によって管理されるアプリ
ケーションなどが含まれます。サービスは USM における一意の CI タ
イプで、関連を使用して、関連付けられた CI に接続します。

アラート

アラートは、統合ドメイン マネージャによってレポートされる障害状
態です。各アラートは CI に関連付けられ、重大度、状態のサマリ、お
よびその状態の発生日時などのプロパティを含みます。

コネクタからのアウトバウンド操作

コネクタからのアウトバウンド操作は、データをドメイン マネージャ
から CA Catalyst にインポートするためにコネクタが呼び出す操作です。
すべてのコネクタは、コネクタからのアウトバウンド操作をサポート
しています。

コネクタへのインバウンド操作

コネクタへのインバウンド操作では、CA Catalyst にインポートされた
データへの変更の結果として、ドメイン マネージャ データストアに
変更を加えます。たとえば、CA Catalyst での CI 調整により、CI プロパ
ティの値を変更できます。インバウンド操作をサポートするコネクタ
は、その後、そのデータが調整されたデータに一致するように、ソー
スドメイン マネージャ内での変更を実行できます。または、CA Catalyst
により真のソースとして定義されているドメイン マネージャで CI が
削除されると、着信操作をサポートするコネクタは、その CI のレコー
ドを備えた他のドメイン マネージャ内の CI を削除できます。

カスタム操作

カスタム操作とは、CA Catalyst によって統合された広範囲のドメイン
マネージャにとって有益となるドメイン マネージャ機能を実装する
ために、コネクタが呼び出せる操作です。たとえば、インシデント管
理製品用のコネクタでは、複数のドメイン マネージャによって管理さ
れる CI 上でアラートのインシデントを作成するためにカスタム操作
を実装できます。

注: その他の概念および詳細については、CA Catalyst ドキュメントを参照してく
ださい。CA Catalyst データの消費製品内での管理方法の詳細については、消費製
品のドキュメントを参照してください。

CA Business Service Insight コネクタ

CA Business Service Insight は、企業における SLA ステータスや SMI スコアなどの重要なビジネス サービス情報を提供します。しかし、この情報を CA および他のベンダーの IT 管理製品と統合し、編成するには問題があります。CA Business Service Insight がこれらの製品と統合するための統合データ形式がないためです。

CA Business Service Insight コネクタを使用すると、サービスの契約ステータスに対する可視性を IT オペレータに提供することができます。これにより、問題をモニタし、優先順位をより正確に決定することができます。コネクタを使用することにより、契約ステータスが CA Business Service Insight から公開され、IT 操作システムによってキャプチャされます。

注：CA Business Service Insight の詳細については、CA Business Service Insight のドキュメントを参照してください。

CA Business Service Insight コネクタ

CA Business Service Insight は、SLA ステータスなどの重要なビジネス サービス情報を提供します。ただし、この情報は、CA Technologies またはその他のベンダーからの IT 管理製品と容易には統合されません。CA Business Service Insight に、これらの製品との統合に使用する統合データ形式がありません。

CA Business Service Insight コネクタを使用すると、サービスの契約ステータスに対する可視性を IT オペレータに提供することができます。この可視性は、IT が問題の領域をモニタし、作業に優先順位を付けるのに役立ちます。コネクタは、IT オペレーション システムに対して CA Business Service Insight から契約ステータスを公開し、キャプチャします。

オペレーティング環境サポート

CA Business Service Insight コネクタは、以下の製品バージョンをサポートしています。

- CA Catalyst r3.1
- CA Business Service Insight v8.1

CA Business Service Insight コネクタは、以下のオペレーティング システムへのインストールをサポートしています。

- 最新のサービス パック 付きの Microsoft Windows Server 2003 (32 ビットと 64 ビット) Standard、Enterprise、および Datacenter
- 最新のサービス パック 付きの Microsoft Windows Server 2003 (32 ビットと 64 ビット) Release 2 Standard、Enterprise、および Datacenter
- 最新のサービス パック 付きの Microsoft Windows Server 2008 (32 ビットと 64 ビット) Standard、Enterprise、および Datacenter
- 最新のサービス パック 付きの Microsoft Windows Server 2008 (64 ビット) Release 2 Standard、Enterprise、および Datacenter

通信ポート

コネクタが製品と通信できるように、以下のポートがコネクタと CA Catalyst の間で開いていることを確認してください。

ポート	コンポーネント
7002	サーバ コンテナおよびコネクタ コンテナ
7000	WS エンドポイント
7001	WS コールバック
8080	HTTP
1433	永続ストア (MS SQL データベース)
5250	CA EEM
61616	ActiveMQ サーバ
8005	レジストリ シャットダウン
8009	レジストリ AJP
8081	レジストリ
8443	

ポート	コンポーネント
61616	バス
7443	HTTPS
7002	HTTP API

注: CA Catalyst または消費製品のポート要件の詳細については、CA Catalyst または消費製品のドキュメントを参照してください。

統合シナリオ

CA Business Service Insight コネクタは、製品を消費することにより CA Business Service Insight からのデータを公開し、管理します。CA Business Service Insight コネクタを使用して CA Business Service Insight データを CA Catalyst に統合することには、以下の利点があります。

SLA ステータスの取得

IT オペレータには、モニタ対象であるサービス契約のステータスへの可視性が必要です。これにより、問題の優先順位をより正確に決定することができます。CA Business Service Insight コネクタは、CA Business Service Insight からの契約ステータスを公開し、それが IT 操作システムによってキャプチャされます。

ダッシュボード要件

IT マネージャには、動作ステータス (SOI で利用可能) および契約上の義務を表示する共通ダッシュボードがあります。CA Business Service Insight コネクタは、SOI によって認識され使用される統合形式データを公開します。

第 2 章：実装および設定

この章では、CA Catalyst と共に CA Business Service Insight コネクタを実装し、設定する方法について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[インストール時の考慮事項 \(P. 13\)](#)

[CA Business Service Insight コネクタのインストール \(P. 14\)](#)

[CA Business Service Insight コネクタの設定 \(P. 18\)](#)

[インストールおよび設定後の操作 \(P. 21\)](#)

[CA Business Service Insight コネクタのアンインストール \(P. 22\)](#)

インストール時の考慮事項

CA Business Service Insight コネクタをインストールする前に、必要に応じて以下を実行します。

- コネクタをインストールする前に Catalyst コネクタをインストールします。これには、SQL Server と CA EEM のインストールが必要です。
- CA Business Service Insight の管理者のユーザ名、パスワード、および組織を収集します。CA Business Service Insight の「スーパー管理者」、「管理者」、および「Insight スーパー管理者」の役割は、管理です。
- レポート データのみ読み取り可能なレポート ユーザを作成します。権限の設定を以下に示します。
 - 契約の契約セクション - 表示
 - すべてのエンティティを所有 - 更新
 - レポートのドリル - 表示
 - レポートのエクスポートと送信 - 表示
 - レポート Raw データの表示 - 表示

注：コネクタは BSI SMI REST API およびレポート Web サービスを呼び出します。これは HTTP をサポートしますが、HTTPS はサポートしません。

CA Business Service Insight コネクタのインストール

CA Business Service Insight アプリケーションがインストールされているコンピュータに CA Business Service Insight コネクタをインストールできます。ただし、コネクタのインストール先であるコンピュータに J2EE サーバ コンポーネントおよび Catalyst コンテナが存在することを確認してください。

CA Business Service Insight コネクタをインストールする方法

1. CA Business Service Insight コネクタ パッケージ (パス : CDROM_Installers¥Windows¥Disk1¥InstData¥VM¥install.exe) から install.exe ファイルをダブルクリックします。
インストーラの導入ページが表示されます。
2. [次へ] をクリックします。
使用許諾契約書ページが表示されます。
3. 使用許諾契約の下部までスクロールし、[使用許諾契約書に同意します] を選択して [次へ] をクリックします。
[管理者設定] パネルが表示されます。
4. CA Catalyst 管理者用に使用されるパスワードを指定し、[次へ] をクリックします。
リモート Catalyst Registry サーバの設定ページが表示されます。
5. リモート Catalyst Registry サーバに接続するための以下の詳細を指定し、[次へ] をクリックします。

レジストリ ホスト

CA Catalyst がインストールされているノードの名前を指定します。

HTTP ポート

CA Catalyst Registry がインストールされているサーバのポート番号を指定します。

デフォルト : 8081

セキュリティ保護サーバポート

CA Catalyst Registry がインストールされている安全なサーバのポート番号を指定します。

デフォルト : 8443

Catalyst コンテナ サーバの設定ページが表示されます。

6. CA Catalyst コンテナ サーバを識別するための以下の詳細を指定し、[次へ] をクリックします。

ノード名

CA Catalyst がインストールされているノードの名前を指定します。

デフォルト：localhost

バスポート

CA Catalyst サーバ用のバスポート番号を指定します。

デフォルト：61616

HTTPポート

CA Catalyst サーバが使用する HTTP ポート番号を指定します。

デフォルト：8080

HTTPSポート

CA Catalyst サーバが使用する HTTPS ポート番号を指定します。

デフォルト：7443

WS エンドポイントポート

CA Catalyst サーバ上の SOAP ベースの Web サービス (WS) ネットワークポートを指定します。他のシステムは、CA Catalyst サーバへの API リモートプロシージャコールを行うためにこのエンドポイントを使用します。

デフォルト：7000

WS コールバックポート

他のシステムが非同期コールバックをすることができるように、CA Catalyst サーバによって使用される Web サービス (WS) ネットワークポートを指定します。

デフォルト：7001

HTTP API ポート

CA Catalyst サーバ上の HTTP リソース状態転送ベースの Web サービスネットワークポートを指定します。他のシステムは、CA Catalyst サーバへの API リモートプロシージャコールを行うためにこのエンドポイントを使用します。

デフォルト：7002

[CA Business Service Insight 設定] ページが表示されます。

7. CA Business Service Insight に接続するための以下の詳細を指定し、[次へ] をクリックします。

モジュール インスタンス

CA Business Service Insight へのアクセスに使用されるインスタンス名を指定します。

デフォルト : localhost

ホスト名

CA Business Service Insight がインストールされているホスト名を指定します。

管理者ユーザ名

CA Business Service Insight へのアクセスに使用される管理者ユーザログイン名を指定します。

デフォルト : sadmin

管理者パスワード

CA Business Service Insight へのアクセスに使用される管理者ユーザパスワードを指定します。

デフォルト : sadmin

管理者組織

CA Business Service Insight へのアクセスに使用される管理者組織名を指定します。

既定値 : CA

[CA Business Service Insight レポート設定] ページが表示されます。

- レポートを設定するための以下の詳細を指定し、[次へ]をクリックします。

レポート ユーザ名

CA Business Service Insight 内のレポートへのアクセスに使用されるレポート ユーザ名を指定します。

デフォルト : reportuser

レポート ユーザ パスワード

CA Business Service Insight 内のレポートへのアクセスに使用されるレポート ユーザ パスワードを指定します。

レポート ユーザ組織

CA Business Service Insight 内のレポートへのアクセスに使用されるレポート ユーザ組織を指定します。

デフォルト : CA

インストールのサマリ ページが表示されます。

- 選択内容を確認し、[インストール] をクリックします。

コネクタがシステムにインストールされ、適切な CA Business Service Insight および CA Catalyst のインスタンスと統合されます。インストールが完了すると、[インストール完了] ページが表示されます。

- [完了] をクリックします。

インストール サマリ ページにインストール エラーが示された場合は、ファイル

「Catalyst_HOME¥CA_Catalyst_Connector_for_CA_Business_Service_Insight_Install_<Date (MM-DD-YYYY)><Time(HH:MM:SS)>.log」を確認してインストールのトラブルシューティングを行います。「Catalyst_HOME」には、Catalyst がインストールされているフォルダを指定します。このファイルは、インストールの完了後、ユーザが [完了] をクリックしたときに作成されます。

CA Business Service Insight コネクタの設定

CA Business Service Insight コネクタをインストールした後に、インストール中に定義したコネクタ プロパティを変更したり、コネクタの動作の調整や統合された製品での変更への対応のためにプロパティを編集することができます。

CA Business Service Insight コネクタを設定する方法

1. Web ブラウザに以下の URL を入力します。

`https://registryserver:port/registry/carbon/admin/login.jsp`

`registryserver`

CA Catalyst Registry がインストールされているサーバの名前を指定します。

`port`

CA Catalyst Registry のポートを指定します。

デフォルト : 8443

CA Catalyst Registry のログインページが表示されます。

2. [Username] フィールドに「`catalyst`」と入力し、[Password] フィールドに Catalyst ユーザのパスワードを入力して、[Sign-in] をクリックします。

Registry 参照ページが開きます。

3. 「`topology¥physical¥<NODENAME>¥modules¥configuration`」に移動して、`BSIconnector.xml` をクリックします。

コネクタ設定ファイルの参照ページが開きます。

4. [Edit as Text] をクリックします。

CA Business Service Insight コネクタ設定ファイルが開きます。

5. 以下のプロパティの値を編集し、[Save Content] をクリックします。

`module_instance`

コネクタのモジュールインスタンス名。

デフォルト : インストール中に入力した `<hostname>`。

`bsi_hostname`

BSI サーバのホスト名。

デフォルト : インストール中に入力した CA Business Service Insight `<hostname>`。

`bsi_smi_api_port`

BAI SMI REST API ポート。

デフォルト：8080。

bsi_smi_api_rootnamme

BSI SMI REST API ルート名。デフォルト値を変更しないでください。

デフォルト：Insight_API

bsi_smi_api_type

BSI SMI REST API 応答タイプ。デフォルト値を変更しないでください。

デフォルト：XML

bsi_smi_api_version

BSI SMI REST API バージョン。デフォルト値を変更しないでください。

デフォルト：0.5

bsi_smi_api_key

BSI SMI REST API のキー。各 API には、実行のために1つのキーと秘密のペアが必要です。値は、インストール中にコネクタ インストーラによって受信され、設定されます。値を変更しないでください。

bsi_smi_api_secret

BSI SMI REST API の秘密。値は、インストール中にコネクタ インストーラによって受信され、設定されます。これは暗号化されています。値を変更しないでください。

bsi_admin_username

インストール中に入力される BSI 管理者ユーザ名。

bsi_admin_password

インストール中に入力される BSI 管理者パスワード。これは暗号化されています。

bsi_admin_organization

インストール中に入力される BSI 管理者組織。

bsi_report_username

レポートユーザは、レポートの読み取りのみを行うユーザとして、インストールの前に作成されます。これはインストール中に入力されるレポートユーザ名です。

bsi_report_user_password

インストール中に入力されるレポート ユーザパスワード。これは暗号化されています。

bsi_report_user_organization

インストール中に入力されるレポート ユーザ組織。

bsi_monitor_change_period_minutes

コネクタは、サービスの SLA 集約ステータスを定期的に確認します。分単位で期間を指定します。

デフォルト： 15。

重要： 接続詳細テーブル内の他のプロパティは変更しないでください。

6. CA Catalyst コンテナ サービスを再起動する。

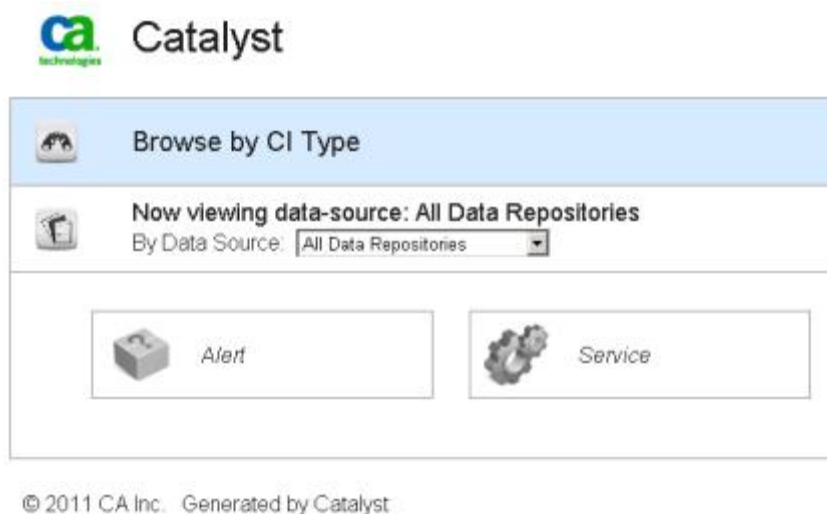
変更が適用されます。

重要： コネクタでは急な開始および停止操作をしないでください。停止および開始により、それぞれ対応するコマンドがコネクタに送信されます。インターフェースから開始および停止操作を急速に実行すると、これらのコマンドがコネクタ上でキューに置かれ、コネクタは、キュー内のコマンドがすべて処理されるまで、開始および停止を繰り返すことになります。

インストールおよび設定後の操作

CA Business Service Insight コネクタをインストールして設定した後、コネクタが正しく動作していることを確認するために以下の手順に従います。

1. 「<Catalyst_Home>%container%data%log%」に移動し、BSI-connector.log ファイルを開きます。このファイルには、コネクタ内の CA Business Service Insight 固有の問題が含まれます。このファイルでエラーを確認し、デバッグします。
2. Catalyst REST Web ページを使用して、コネクタが正常にインストールされていることを確認します。
 - a. Catalyst REST Web ページ
(http://<catalyst_host>:8080/ca-rest/browse/type?mdr=all) を開きます。
 - b. Catalyst の管理者ユーザ名およびパスワードでログインします。コネクタが正常にインストールされている場合、以下のページが表示されます。



- c. ドロップダウンリストから「CA Business Service Insight」を選択します。
- d. [サービス] アイコンリンクをクリックします。すべてのサービス (CA Business Service Insight で設定済み) のリストが表示されます。
- e. [アラート] アイコンリンクをクリックします。各サービスのすべてのアラートのリストが表示されます (サマリ行に「サービス <サービス名> のアラートが初期化されています」という内容が表示されます)。

CA Business Service Insight コネクタのアンインストール

CA Business Service Insight コネクタは、不要になった場合にアンインストールすることができます。

CA Business Service Insight コネクタをアンインストールする方法

1. コネクタがインストールされているコンピュータで、[スタート] - [プログラム] - [CA] - [Catalyst] - [CA Business Service Insight 用の CA Catalyst コネクタのアンインストール] を選択します。

[CA Catalyst のアンインストール] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [アンインストール] をクリックします。

コネクタがアンインストールされ、[アンインストール完了] ページに、発生したあらゆるエラーを含めてアンインストールの結果が一覧表示されます。
3. [完了] をクリックします。
4. Catalyst 管理者ユーザで CA Catalyst Registry にアクセスします。デフォルト URL は `https://<registry-server-hostname>:8443/registry/carbon/admin/login.jsp` です。デフォルトユーザは Catalyst です。パスワードはインストール中に入力したものです。
5. ファイル「`/topology/physical/<node>/startup.properties`」に移動し、プロパティファイル内の文字列「`,bsi-connector;3.1.0`」を削除します。
6. ファイル「`/topology/physical/<node>/connector-modules.xml`」に移動し、以下の文字列を削除します。“`<feature name="bsi-connector" version="3.1.0">
<bundle>file:C:/Program
Files/CA/Catalyst/container/system/com/ca/catalyst/3.0.0/bundles/com.ca.bsi.catalyst.connector.jar</bundle> </feature>`”
7. 以下の 4 つのファイルを削除します。
 - `/topology/physical/<node>/modules/configuration/BSIConnector.conf`
 - `/topology/physical/<node>/modules/configuration/BSIConnector.xml`
 - `/topology/physical/<node>/modules/policy/bsiconnector_policy.xml`
 - `/topology/physical/<node>/modules/policy/bsiconnector_policySB.xml`
8. 変更を保存します。
9. CA Catalyst Registry およびコンテナを再起動します。

第 3 章: コネクタとドメイン マネージャのインタラクション

この章では、CA Business Service Insight コネクタと CA Catalyst とのインタラクション方法、および、コネクタがエンティティを USM スキーマにマップする方法について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[コネクタからのアウトバウンド操作 \(P. 23\)](#)

[USM データ マッピング \(P. 23\)](#)

コネクタからのアウトバウンド操作

CA Business Service Insight コネクタは、J2EE サーバ上で実行される Web サービスを使用して CA Business Service Insight と通信します。

CA Business Service Insight コネクタは、コネクタからアウトバウンド操作を呼び出して、以下の CA Business Service Insight データを消費製品にインポートできます。

"管理対象" サービスリストの取得

特定の "管理対象" サービス情報の取得

"サービスの SLA の集約ステータス" に変更があった場合のアラートの取得

アラートからの "CA Business Service Insight レポートへのサービスのコンテキスト内の起動" を有効にするための URL の公開

USM データ マッピング

コネクタはドメイン マネージャからサービスと CI をインポートするときに、USM スキーマに従うためにドメイン マネージャ内のクラス、プロパティ、関係および重大度を正規化します。

注: CI プロパティ マッピングの詳細については、Catalyst Registry の `/topology/physical/<node>/modules/policy` にある `bsiconnector_policy.xml` コネクタポリシー ファイルを参照してください。

タイプのマッピング

以下の表は、コネクタが CA Business Service Insight タイプを USM タイプにどのようにマップするかを表しています。

CI タイプ

USM タイプ	CA Business Service Insight タイプ
サービス	サービス
アラート	アラート

サービス プロパティ

USM タイプ	CA Business Service Insight タイプ
MdrProduct	CA : 00073
MdrProdInstance	ホスト名
MdrElementID	Oblicore_SVC_ID
ServiceName	Service_Name
ServiceVersion	1.0
説明	説明

アラート プロパティ

USM タイプ	CA Business Service Insight タイプ
MdrProduct	CA : 00073
MdrProdInstance	<Hostname>
MdrElementID	Alert_ Oblicore_SVC_ID
AlertedMdrElementID	Oblicore_SVC_ID
AlertedMdrProdInstance	<HostName>
AlertedMdrProduct	CA : 00073
AlertType	品質
サマリ	アラート サマリ
重大度	正常/クリティカル/情報
メッセージ	Alert_Message
OccurrenceTimestamp	Alert_Time_Stamp

USM タイプ	CA Business Service Insight タイプ
ReportTimestamp	Alert_Time_Stamp
